

舞鶴市への要望

昨年の12月27日、廣瀬会頭、江守副会頭、坂田副会頭、小西政策提言委員長、瀬川専務理事が、舞鶴市役所に多々見市長を訪ね、「要望書」とあわせて、参考資料として、当所10部会から示された69件の「部会別の要望リスト」を手渡しました。

当日は、市長のほか、馬場副市長、木村副市長、砂原経済部長の同席のもと廣瀬会頭から要望の趣旨・内容について説明いたしました。

多々見市長からは、以下の発言がありました。

- ・要望項目についてはその方向性や問題意識は共通するものがあり、要望の趣旨についてもよく理解できる。
- ・すでに取組んでいる、もしくは取り組もうとしている項目も多く、まだのものについては、その内容を良く精査して要望の趣旨を十分に踏まえて対応していきたい。
- ・街の活性化を図るためには、当市の強みである地域資源を最大限に活かしていくことが重要である。舞鶴は、海や港を始めとする豊かな自然と美しい景観、地域独自の歴史や伝統文化・芸術など魅力あふれる素晴らしい観光資源を持っており、豊かな自然が生み出す美味しいグルメ食材にも恵まれている。これらの地域資源を市民の“知恵”と“工夫”で磨き上げ、“オール舞鶴”で豊かなまちづくりに繋げたい。

京都府への要望

昨年の12月26日、瀬川専務理事、西山常務理事・事務局長が京都府中丹広域振興局に金谷浩志局長を訪ね、山田知事と金谷局長あての「要望書」とあわせて、参考資料として、当所10部会から示された69件の「部会別の要望リスト」を手渡し、その趣旨を説明しました。

懇談の中で、行政、経済界の各々の立場から、管内の景況について忌憚のない意見交換をしましたが、金谷局長からは、「要望書の趣旨・内容については、地域の強い思いとしてしっかり受けとめ、施策の参考にさせていただくとともに、関係部局にも伝えていきたい。また、地域の経済を先導される商工会議所には、さらなるリーダーシップの発揮を大いに期待する」との発言がありました。

2. 京都府知事と府連との懇談会

京都府商工会議所連合会と京都府知事との懇談会が、昨年12月16日（月）に京都市内のホテルで開催され、当所からは廣瀬会頭と瀬川専務理事が出席しました。

この懇談会は、京都府商工会議所連合会とその構成メンバーである府内の各商工会議所が抱える課題や要望事項などについて、知事と会頭が直接に意見交換をする“場”として、年1回開催しています。

京都府からは山田知事・田中商工労働観光部長が、また府内の8商工会議所からは会頭・専務理事が参加しました。

懇談会の冒頭、府連の立石会長は、開会挨拶の中で、「円安により中小企業の経営環境にも改善の兆しが見えてきたが、地域経済に行き渡るにはしばらく時間がかかる。これから国の成長戦略と経済対策をいかに活用していくかがポイント。商工会議所としては、会員企業への支援体制を一層強化して取り組みたい。

“オール京都”で地域の強み・知恵を活かし広域的に連携することで、京都経済の持続的な発展に繋げたい」と述べられました。

これに対し、山田知事は挨拶の中で、「景気回復は見られるものの、中小企業を中心にみるとD I 値はいまだマイナスであり、地域経済に実感のある景気回復とは言い難い。アベノミクスは、地域経済には今のところその効果が十分でないが、新年度の中・長期的な経済対策によって成果が見える形になることを期待したい。今後とも、商工会議所と京都府のさらなる連携強化をはかる中で、“オール京都”の体制で地域・経済の活性化に努めたい」と述べられました。

この後、府内の会頭から各々の地域の課題・要望など山田知事との間で活発な意見交換が行われ、当所の廣瀬会頭は①「海の京都」事業、②「新エネルギーへの取り組み」について、の2点について発言しました。

これに対し、知事は、①については「“海の京都”事業を推進するために、宮津・伊根とリンクする形で、府北部の交通手段や海運の確保に向けた支援をしっかりとしていきたい。また、京都縦貫自動車道が完成する2015年をターゲットイヤーとして、それに弾みをつけるため来年の海フェスタは全力で取り組んでいきたい」、②については「洋上風力発電については非常に興味があるが、日本の風自体がヨーロッパとは違い、安定した一定方向の風とは言い難いため、そういった点も踏まえて取り組んでいきたい。また、メタンハイドレートについては、すぐにはないが、埋蔵量の点からも将来的に必ず採掘に至る可能性が高い。その際には、採掘されたメタンハイドレートの受入港として京都舞鶴港の活用も考えていきたい」などの所見を述べられました。

最後に、閉会の挨拶の中で、福知山の花火事故を受けた府連全体の強い意向として、府連の立石会長から「商工会議所には地域のまちづくりや活性化に向けたイベントを実施する社会的使命があるため、必然的に関わらざるを得ない。今後のイベントについては、これを教訓に取り組んでいくが、その前提として、京都府の積極的な関与をお願いしたい」との要望がありました。